

浜松医科大学内科専門医研修プログラム (浜松医科大学医学部附属病院)

1 はじめに

国民に分かりやすく安心な医療を提供する為に、標準的な医療の質、サービスを確保する事を目的として、内科全般 Generality と内科系 Subspecialty の調和を保った内科専門医を養成する為の新内科専門医制度が平成 30 年度から始まります。

その中で、初期研修医の皆さんには、将来の理想の医師に近づく為の戸惑いや、確実な研修が行えるかどうかの不安があると思います。それに対し私達は、県内外の多くの医療機関の協力を得て、先進的で高度な医療を経験出来る大学病院と、第一線の医療を担う市中の医療機関の両方で幅広い研修を行うことが出来、学内外の豊富な指導スタッフを揃えた「浜松医科大学内科専門医研修プログラム」を用意しました。



プログラム統括責任者 浜松医科大学医学部附属病院 第二内科 教授 須田 隆文

2 目的

本プログラムの到達目標は以下の通りです。

- ① 臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医に共通して求められる基礎的な診療能力を修得すること。
- ② 知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接する能力を修得すること。
- ③ 医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を修得すること。
- ④ 静岡県内の医療事情を理解し、地域の実情に合った実践的医療を行えるようになること。

そのために具体的には、

- ・ 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験すること。
 - ・ 日本内科学会専攻医登録評価システムへ、症例(定められた 200 例のうち、最低 160 例)を登録し、それを指導医が確認・評価すること。
 - ・ 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
 - ・ 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること。
- を、3年間の専攻医研修期間で完了することになります。これは、内科専門医受験資格を得るために必須の条件でもあります。

3 研修病院群

(1) 専門研修基幹施設

浜松医科大学医学部附属病院

(2) 専門研修連携施設

連携施設 県西部 (12)	連携施設 県中部 (11)	連携施設 県東部 (5)	特別連携施設 (14)
磐田市立	静岡県立総合	静岡県立 がんセンター	公立森町
御前崎総合	静岡市立静岡	沼津市立	国民健康保険佐久間
市立湖西	静岡市立清水	富士宮市立	浜松市リハビリテーション
菊川市立	静岡赤十字	共立蒲原総合	浜松北
国立病院機構 天竜	静岡済生会	NTT東日本伊豆病院	浜松南
静岡厚生連遠州	静岡厚生連 静岡厚生		三島総合
聖隷浜松	静岡徳州会		伊豆保健医療センター
聖隷三方原	島田市民	連携施設 県外 (1)	三島共立
浜松医療センター	焼津市立総合	NTT東日本関東	裾野赤十字
浜松労災	藤枝市立総合		北斗わかば
浜松赤十字	榛原総合		坂の上ファミリー クリニック
中東遠総合 医療センター			坂の上在宅医療 支援医院
			静岡てんかん 神経医療センター
			新城市民病院

4 専攻医受入数

30名。全ての内科領域を広く研修したい専攻医のために内科全般を研修する内科基本コース(5名)、早い段階から Subspecialty の研修を希望する専攻医のために診療科重点コース(25名)を設置しています。

5 研修期間

3年。そのうち、当院での研修期間は、6ヶ月、1年、2年を設置しています。

6 研修計画(例)

▶ A 内科基本コース(定員5名)

	1年目	2年目	3年目
I	浜松医大 ローテーション	連携施設 ローテーション	連携施設 ローテーション
II	浜松医大 ローテーション	連携病院 ローテーション	連携病院 ローテーション

▶ B 診療科重点コース(定員25名)

	1年目	2年目	3年目
I	浜松医大 ローテーション	連携施設 ローテート/サブスペ	連携施設 サブスペシヤルティ
II	浜松医大 ローテーション	連携施設 ローテート/サブスペ	連携施設 サブスペシヤルティ
III	浜松医大 ローテーション	連携施設 ローテート/サブスペ	連携施設 サブスペシヤルティ

7 問い合わせ先

プログラム管理者: 大橋 温

E-mail: ohashi-n@hama-med.ac.jp 電話: 053-435-2356 Fax: 053-434-2354